

これからの明るい社会の実現に向けて

公益財団法人 群馬県長寿社会づくり財団

前橋市



シニアが活躍できる社会づくりを目指し、総合的支援を行う群馬県長寿社会づくり財団。ここでは「ぐんまときめきフェスティバル」と「ぐんまねりんピック」を紹介する。



プロ顔負けの絵画に見入るお客様たち



俳句大会で表彰を受ける参加者

●活動内容

財団では、「明るく活力のある長寿社会ぐんま」の実現を目指し、各種イベントや講習会、「ときめき群馬」による情報発信などを企画、運営している。

「ぐんまときめきフェスティバル」は、絵画や俳句など、県内在住のシニア作品を発表する場として、毎年開催。水墨画を含む日本画の部、洋画の部、彫刻の部、工芸の部、書の部、写真の部の6部門で作品を募集。それぞれの規格にあっていれば、作品テーマは自由で、参加資格はアマチュアであること。

「ぐんまねりんピック」は、県内在住の59歳以上のシニア（なぎなたは、50歳以上）を参加対象とした競技大会。群馬県と市町村、(公財)群馬県スポーツ協議会が連携して、参加人数2,000人という大規模な大会を開催している。

種目は、ゲートボールやグラウンドゴルフ、マラソンや水泳といった体力が要求される種目から、囲碁や将棋といった知力が要求される種目まで、さまざま。

財団発行の情報誌「ときめき群馬」には、その他のイベント告知や地域の活動団体の紹介なども掲載されており、シニア層のみならず、一読する価値がある。

●事業を始めたきっかけ

財団は、平成3年に高齢者の生きがい対策の推進のため設立された。平成4年から開催している「ぐんまときめきフェスティバル」は、シニア世代が創作した作品を発表する場である。

作品を展示することで、社会参加と生きがいづくりを推進するとともに、超高齢社会について一緒に考える機会を持つことを目的としている。美術作品を幅広く募集し、隔年で短歌と俳句の大会も開催している。

展示会は「全国健康福祉美術展」への県代表作品の選考の場ともなっているため、出品者の創作意欲も盛り上がり、多数の作品を見ることができる。

また、昭和63年に全国健康福祉祭(ねりんピック)が始まり、平成16年には群馬県が開催地になった。これを機に、本県では「ぐんまねりんピック」を毎年開催。シニア世代を中心として、楽しみながら交流を深めることのできる競技大会は、回を追う毎に大きな祭典へと成長している。



囲碁は知能戦。脳の活性化にもつながる



体力のいる弓道も、元気いっぱいのシニアは楽々こなす

●工夫している点・特長

「ぐんまときめきフェスティバル」では、記念講演の中で、高齢者や中高年の生き方や考え方、超高齢社会における働き方などを幅広く提案しており、参加者から好評を得ている。

総合開会式において、別途年代を問わずに実施している「私のメッセージコンクール」の表彰をすることにより、本コンクールを来場者へも周知している。

「ぐんまねりんピック」に、出場するという明確な目標を持つことにより、スポーツ活動へ積極的に取り組む意欲が芽生える。シニア世代の健康寿命の延伸や

介護予防に寄与している大会である。

団塊世代が75歳以上となる2025年に向けて、高齢者層の生きがいの場を増やし、積極的な健康づくりや介護予防へとつなげることが重要となっている。

どちらも、日々鍛錬している参加者の成果を発表する場であり、「ぐんまときめきフェスティバル」は全国健康福祉祭美術展へ、「ぐんまねりんピック」は全国健康福祉祭への選考を兼ねていることから、シニア層の参加意識が高いことが特長だ。



〈やりがい・楽しみ〉

「ぐんまときめきフェスティバル」参加者の声。

「美術展の立派な作品が毎年楽しみ。出品も頑張ります」、「俳句が入選してうれしい。今後も参加したい」、「講演会が大変参考になり、力を与えてくれた」。

「ぐんまねりんピック」参加者の声。

「県内で大きな大会があるので、参加しやすく励みになる」、「健康維持のため日々運動しているが、成果を発揮できる場があることが継続の力になる」。

基礎データ

☎027-255-6511

(公財)群馬県
長寿社会づくり財団

事業開始時期/平成3年
平成4年:ぐんまときめき
フェスティバル

平成17年:
ぐんまねりんピック

主な活動/高齢者の健康
づくり、生きがいづくり・
高齢者の能力活用、
雇用や就業を促進

人数・年齢/平成25年度
ぐんまときめきフェスティバル
1,791名

ぐんまねりんピック
1,909名 最高齢96歳